

平成29年度 調布市立 染地小学校 学校評価報告書

様式1

領域	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	次年度優先順位
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究においてユニバーサルデザインの視点からの授業改善を目指し取り組んできた。「焦点化」「視覚化」「共有化」を取り入れたり、発問の仕方を工夫したりすることができた。また、新学習指導要領の改訂に伴う移行措置などを年間指導計画にもりこんで教員の意識を高めることができた。 算数において低学年はTTによる複数教師による授業、中学年以上は「ハチの子」「ぐんぐん」に分けた習熟度別学習を行っている。各学年で始業時に100問テストを3分間で行い計算の基礎力をつけてきた。5年生の都の児童・生徒の学力調査からA層が上昇したが、C,D層が増えて、学力に開きが見られた。 いろいろな行事を通して、児童の発表の場を設けることで、児童の表現力を育成することができた。 教師の言動が児童の学習意欲の向上を促している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上には学校の教師全員の教える意欲が必要であり、教員が元気でやる気がないと子供には伝わらない。染地小学校の先生は一生懸命取り組んでいる。これからは、家庭学習に力を入れた方が良くと思うが、家庭でどう取り組ませていけば良いのが課題である。 低学年の複数教師の授業は、子どもの安心につながり、中高学年の算数少人数は、子どもにとってじっくり学べる場となっているから、継続して欲しい。 先生方が朝早く夜遅くまで働いている様子が伺える。ライフワークバランスという考えから、先生達が元気で子ども達と接してほしいので働き方を見直してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究をさらに推進し、授業のグランドデザイン化を目指し、全ての児童が更にわかるできるを体感できる実践的な内容とする。 算数の習熟度別学習で単学級による2展開では、学力定着が難しいこともうかがえる。スクールサポーターや学習ボランティアが基礎コースに入り、より児童が理解できるようにしていく必要がある。また、担任と少人数、支援に入る教師との連携をとり、児童の実態に合った指導を行っていく必要がある。 児童の表現活動を育成するために、引き続き各行事を通して発表の場を設定していく。 土曜日授業の持ち方の工夫、月1回の定時退勤デーの設定、夏季休業中の閉校日の設定などを通してメリハリのある仕事の仕方を教員に促す。 	A
健全育成	<ul style="list-style-type: none"> 年5回のあいさつ運動、また、保護者の方の働きかけ等によりあいさつが身につけている。来校者からも、児童や保護者のさわやかなあいさつが学校の楽しい雰囲気を感じると感想を寄せてもらっている。児童総会では、「あいさつがあふれる学校にしよう」というテーマで話し合い、あいさつボランティア活動をするようになった。朝8時から各クラスでのあいさつ運動が活発に行われた。 生活指導朝会を軸に児童情報を共通理解し、同じ目線で指導を行うようにした。必要に応じて、ケース会議を開いて対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> 本当に気持ちの良いあいさつが校内で溢れている。子どもの様子も明るく、来校しても気持ちが良い。染地小の伝統として継続してほしい。 先生方の丁寧な対応がありがたい。今後も小規模校の良さを活かして行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「喜んで登校 満足して下校」が毎日継続できるように、まずは朝の明るい元気な「あいさつ」から出発できるように「あいさつ運動」を継続していく。 支援を要する家庭、児童が少なくないので、関係諸機関と連携したり、学校と家庭の支援員を活用したりして対応していく。 	B
健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> オリパラ教育としてパラリンピック出場のウェルチエアラグビーの官野一彦選手の講演と車いす体験活動は子どもや教員も楽しく参加することができた。また、陸上の世界的指導者である澤村教授に「正しい走り方教室」をしていただき、6年生の走力が向上した。 学校アンケートによると運動が好きな子どもが85%を超えている。体育の複数教師による安心した分かりやすい授業の工夫がなされている。また、ロング昼休みや放課後遊びの設定が効果的であった。 食育朝会で児童が中心となり、栄養や給食の食べ方を発表したり、毎日の給食の栄養ポイントなど健康への意識付けとなった。さらに、栄養士が総合の時間に「食育」を授業したことは効果があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年も他校では呼べないようなオリンピック選手と指導者を招いていただき感謝している。スポーツ推進員として子ども達にスポーツのすばらしさを伝えたいので是非活用してほしい。 昼休みや放課後に先生と一緒に遊んでいる姿は素晴らしい。これからも一緒になって運動をして、運動好きな子どもにして欲しい。 食べることは体づくりの基本ですが、朝会や昼の給食放送などは大変良いと思うので継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 本物のスポーツ選手との交流から、スポーツへの意欲を向上させる。地域の方の力も借りてスポーツの楽しさを子ども達に伝えてもらう機会を設定していく。 今後も体育の授業の充実と運動(遊び)の場(時)を設定していく。 食育の授業を、カリキュラムマネジメントの視点で各教科の年間指導計画に取り入れていく。 	C
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 5月の個人面談、11月の希望者による個人面談を設定し、保護者が学校に相談しやすい体制づくりをすることができた。また、今年、大きな行事を変更した(秋運動会、音楽会)にしたことを行事後にアンケートを取り保護者の願いや感想を具体的に知ることができた。さらに、教職員全体でその意見を共有した。 児童の健全育成に関して、健全委員会や開放委員会やおやじの会、PTAと協力しながらいろいろな地域行事を行い、教員も協力することができた。 避難所運営マニュアルを防災課と地域の方たちと作成し、共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 秋に実施した運動会は、児童の実態に合っていた。初めての音楽会も良かったが、改善できることを活かして次のつなげてほしい。 毎年行っている行事がマンネリ化してきているので、どのように取り組んでいったらよいかと悩んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域の願いを取り入れた学校運営を行うために、授業参観や各種行事後は保護者アンケートを実施し、教員も共有し改善していく。 学校開放委員会、PTA、健全育成協議会等の関係諸団体との意思疎通をはかるため、教職員は各種外部会議に極力参加したり、子どもは地域行事に参加させたりする。また、地域行事のあり方など共に考えながら、同一視線で児童の育成をしていく。 学校施設を可能な限り貸し出したり、開放することにより、地域の中の学校意識を高める。 	B
特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 小規模校の利点を生かし、異学年集団による交流の「ハチの子タイム」を実施した。高学年は、リーダーシップを発揮して、計画を立て自分たち主体の交流を行った。上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生を信頼することができ、良い関係づくりをすることができた。 通常の学級とたけのこ学級との交流により、お互いの良さを実感していた。人権感覚の向上につながった。 学期1回、校庭芝生での縦割り班での青空給食を通して異年齢の仲間作りにつながった。また、高齢者とのふれあい給食や交流学習を通して、高齢者とのかかわりや尊敬の念をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ハチの子タイム」を子ども達は楽しみにしている。小規模校だからこそ、学年を越えて知っていたり仲良く遊んだりできるので、これからもずっと続けて欲しい。 上級生がたけのこの児童に優しく接してくれていてほほえましい。優しい心をこれからも大切にしていってほしい。 校庭の芝生は、染地の財産でもあるので有効に活用してほしい。また、地域のお年寄りも、子どもとの交流を楽しみにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦割りで異学年交流の「ハチの子タイム」を来年度も実施し、高学年がリーダーシップをとる姿が下学年のお手本になっていて、染地の良き伝統になっている。今後も、高学年主導で楽しい交流を進めていく。 通常の学級とたけのこ学級との交流週間を設定し、交流学習、共同学習を進めていく。 ふれあい給食や地域行事への参加を通し、地域への感謝と地域の中で育っていることのありがたさを伝えていきながら、児童の染地小への誇りと感謝の意識をさらに育てる。 	C